

トラック輸送情報（平成19年4月分）

平成19年7月23日

国土交通省 総合政策局 情報管理部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：平野、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

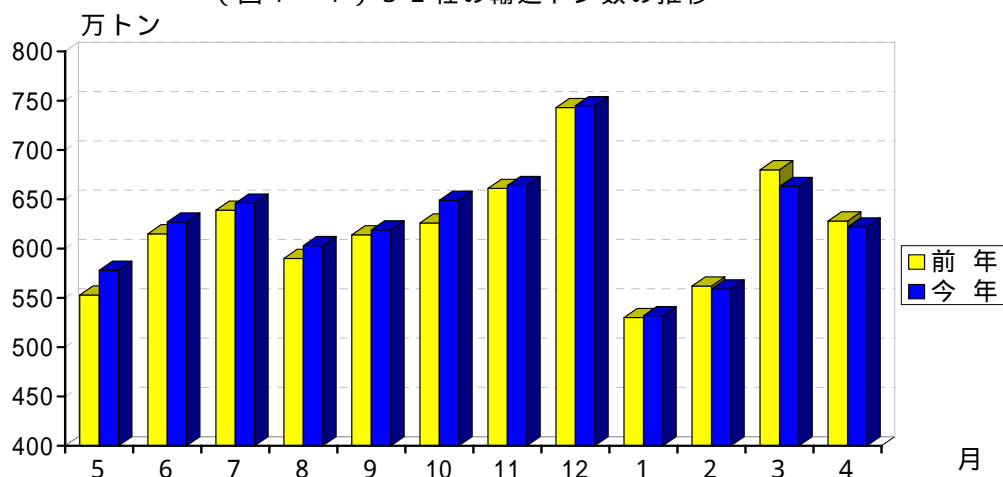
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,218,118トンで、前月と比べ総輸送量が約41万トン減少したため、前月比93.8%（季節調整済み100.4%）となり、前年同月との比較では、約6万トン減少したため、前年同月比99.0%の実績であった。

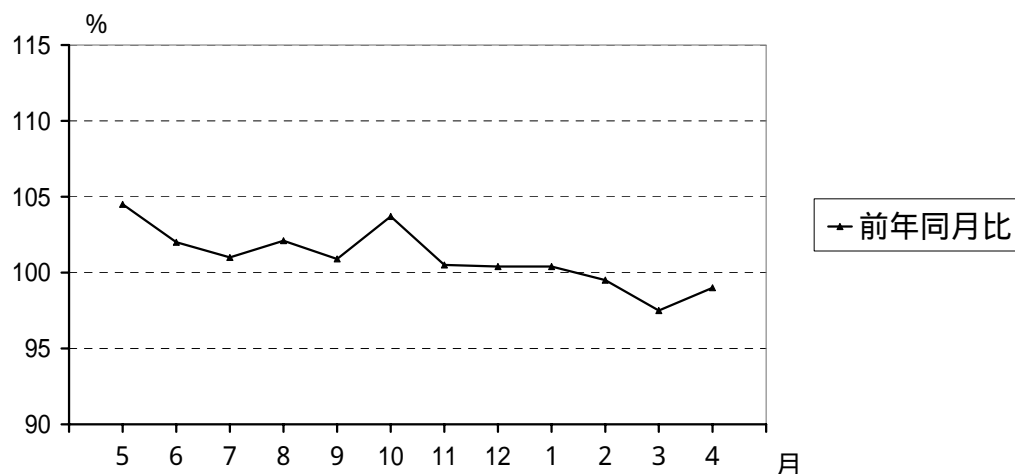
なお、平均稼働日数は23.6日で、前月と比べ1.5日の減少、前年同月と比べ0.8日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、263,480トンで、前月と比べ約1千トン減少したため、前月比99.8%となり、前年同月との比較では、約2千トン減少したため、前年同月比99.4%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

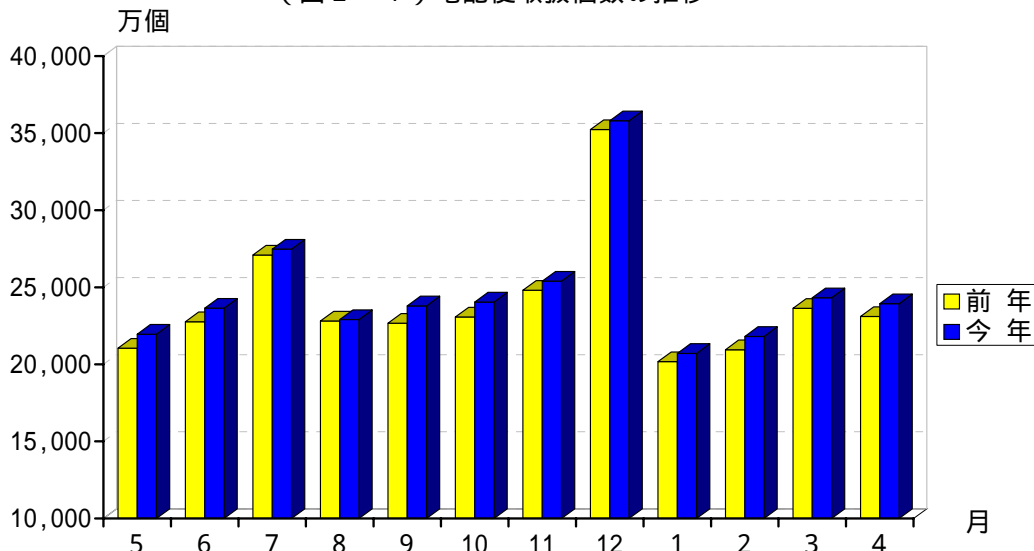


(2) 宅配便の概況

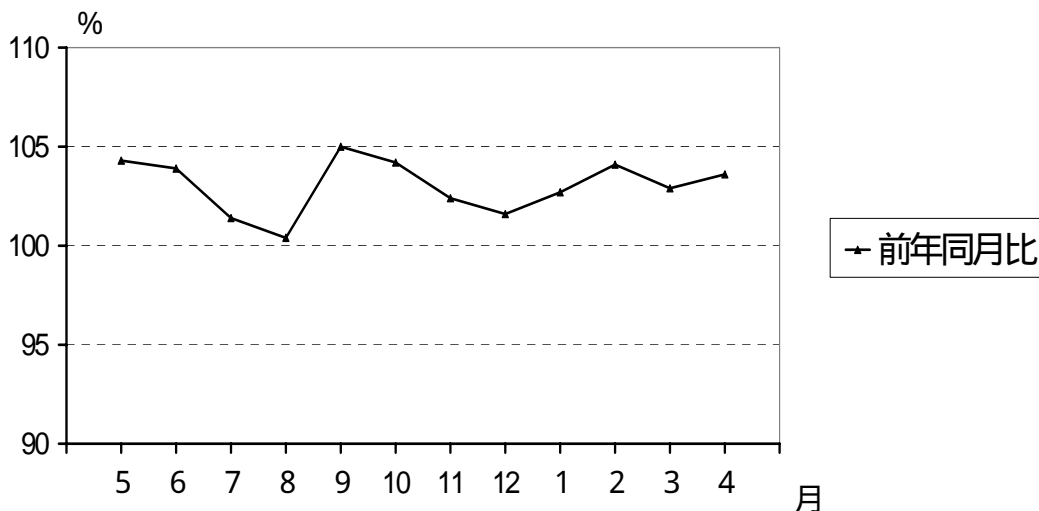
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、239,338 千個で、前月と比べ約 383 万個減少したため、前月比 98.4% (季節調整済み 100.2%) となり、前年同月との比較では、約 829 万個増加したため、前年同月比 103.6% の実績であった。

(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、平均稼働日数が減少したこと等により貨物量が減少した。品目別では、「化学工業品」及び「食料工業品」に一部増加がみられるものの、全ての品目で減少回答が多かった。減少要因としては、主に工場・生産地からの貨物減及び倉庫から出る貨物減であった。地域的には、「農水産品」が東北、関東で、「化学工業品」が大阪、近畿、中国で、「金属製品」、「機械」、「繊維工業品」及び「日用品」については、ほぼ全国的に減少した。

前年同月と比べると、貨物量は3ヶ月連続で減少した。品目別では、「機械」、「化学工業品」及び「日用品」で減少回答が多く、工場・生産地からの貨物減及び倉庫から出る貨物減が主な要因となっている。地域的には、「機械」が愛知、大阪、近畿及び中国で、「食料工業品」が大阪、中国及び福岡で、「日用品」が北陸信越、近畿及び九州を中心にそれぞれ減少した。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	12	3	1	野菜	東北、関東	
	金属製品	1		15	11		その他の金属製品	東京、神奈川、北陸信越、中部、近畿地方、中国	4, 7
	機 械			14	13		電気機械、その他の機械、機械部品	東北、関東地方、北陸信越、愛知、近畿地方、中国	4, 7
	化学工業品	1	2	15	12		その他の化学工業品		
							その他の化学工業品	大阪、近畿、中国	4, 7
	繊維工業品		2	19	7	1	織物	関東地方、中部地方、大阪、近畿、中国	4
	食料工業品		4	17	6			北陸信越	4
							その他の食料工業品	福岡	7
	日 用 品		1	14	14		書籍・印刷物、その他の日用品	神奈川、関東、北陸信越、大阪、近畿、中国	4, 5, 7
前 年 同 月 に 比 べ て	そ の 他		1	15	10	2	宅配便	神奈川、関東、全国	4
	農水産品	1		14	2	1			
	金属製品		1	24	1	1			
	機 械		3	17	6	1	その他の機械、機械部品	愛知、大阪、近畿、中国	4, 7
	化学工業品	1	2	22	4	1	その他の化学工業品		
							その他の化学工業品		7
	繊維工業品		1	25	3			関東	
	食料工業品		2	21	4		飲料		
							その他の食料工業品	大阪、中国、福岡	
日 用 品	1	4	16	7		その他の日用品			
前 年 同 月 に 比 べ て							書籍・印刷物	北陸信越、近畿、九州	9
	そ の 他		7	16	5		宅配便、百貨店配送品	関東	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 813 社 / 調査対象事業者数 1,064 社）の輸送量は、前月比 94.7%、前年同月比 101.4%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	94.7%	96.2%	95.3%	95.2%	96.4%	92.9%	93.7%	91.3%	94.0%	94.6%	97.2%
前年同月比	101.4%	103.1%	100.9%	98.7%	106.8%	97.9%	99.7%	102.8%	98.3%	100.7%	115.9%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比は96.2%、対前年同月比は103.1%であった。品目別には、「セメント」、「化学肥料」、「取り合せ品」等の輸送量が増加した。一方、建設関係の需要減により、「砂利・砂・石材」が、春期到来による排雪需要の減少により「廃棄物」が、水産関係の漁獲の不調により「水産品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は横這い傾向、以降は増加傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 95.3%、対前年同月比 100.9%であった。品目別には、季節的需要増により「化学肥料」、「食料工業品」のほか、「その他の化学工業品」、「紙・パルプ」、「日用品」等の輸送量が増加した。一方、「水産品」、「木材」、「機械」、「その他の石油製品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 95.2%、前年同月比は 98.7%であった。品目別には、「その他の化学工業品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「その他の石油製品」、「紙・パルプ」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したほか、「金属製品」等の輸送量も減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比 96.4%、前年同月比は 106.8%であった。品目別には、建設関連の需要増により「機械」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「その他の石油製品」の輸送量が減少したほか、「木材」、「砂利・砂・石材」、「金属製品」、「その他の窯業品」等の輸送量も減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 92.9%、対前年同月比は 97.9%であった。品目別には、「畜産品」、「木材」、「砂利・砂・石材」の輸送量が増加した。一方、「鉄鋼」、「金属製品」、「食料工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 93.7%、対前年同月比は 99.7%であった。品目別には、「木材」、「機械」、「その他の化学工業品」、「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、「鉄鋼」、「繊維工業品」、「取り合せ品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 91.3%、対前年同月比は 102.8%であった。品目別には、季節的需要増により「その他の農産品」、「日用品」等の輸送量が増加した。一方、建設関連の需要減により「木材」、「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「金属製品」、「機械」、「セメント」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 94.0%、対前年同月比は 98.3%であった。品目別には、季節的需要増により「その他の農産品」、「食料工業品」、「取り合せ品」の輸送量が増加した。一方、建設関係の需要減により「砂利・砂・石材」、「セメント」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 94.6%、対前年同月比は 100.7%であった。品目別には、季節的需要増により「野菜・果物」、「その他の農産品」の輸送量が増加したほか、「廃棄物」等の輸送量も増加した。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」等の輸送量が、季節的需要減により「その他の石油製品」等の輸送量が減少したほか、多くの品目で輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比で 97.2%、対前年同月比は 115.9%であった。品目別には、季節的需要により「取り合わせ品」（引越し貨物）の輸送量が増加したほか、「金属くず」（スクラップ）等の輸送量も増加した。一方、季節的需要減により「その他の農産品」（花卉）等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	北	東	陸	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	1	2							1				4
	減		3		1					2				6
2. 野菜・果物	増	1			1					1		9		12
	減			1						1	2			4
3. その他の農産品	増									2	1	2		5
	減	3											1	4
4. 畜産品	増	1						1				2		4
	減											1		1
5. 水産品	増			1						1			1	3
	減	4	2	1						1				8
6. 木材	増	2						1	1			1		5
	減	4	2		2					1		2	1	12
7. 薪炭	増													
	減								1					1
8. 石炭	増				1					1				2
	減	1			1							1		3
9. 金属鉱物	増	1										1		2
	減													
10. 砂利・砂・石材	増	5	2		2	1						1		11
	減	12	1	1	3					1	1	11		30
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1											2
	減		1						1					2
12. 鉄鋼	増	2	2							1		1		6
	減	3	1	1		2	2	3				1	1	14
13. 非鉄金属	増				1							1		2
	減				1									1
14. 金属製品	増	1	1		1			1					1	5
	減		1	2	2	2	2	3	1					13
15. 機械	増	1			2	1	2	1				2		9
	減		2			2	1	4				4		13
16. セメント	増	3			1									4
	減				1					4	1	9		15
17. その他の窯業品	増		1		1									2
	減		2		2			1				1		6

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増 減	1 2								
19. その他の石油製品	増 減	2 1			1							2 14
20. コークス・ その他の石炭製品	増 減				1							1 2
21. 化学薬品	増 減							1		1		2 4
22. 化学肥料	増 減	3	4	1							1	9 4
23. その他の化学工業品	増 減	1	2	1			1	1				6 6
24. 紙・パルプ	増 減	1	2			1		1		2	1	8 13
25. 繊維工業品	増 減					1	2				1	4
26. 食料工業品	増 減	1	4				2	2	5	3	1	18 13
27. 日用品	増 減		3			2		2				7 8
28. その他の製造工業品	増 減		2	2		1				1		6 10
29. 金属くず	増 減				1						1	2
30. その他のくずもの	増 減										1	1
31. 動植物性飼・肥料	増 減									1		1 8
32. 廃棄物	増 減						1	1		4		6 6
33. 輸送用容器	増 減	1 1			1							1 2
34. 取り合せ品	増 減	4				1			2	1	3	11 9
35. その他	増 減			4	1		1	2		1	1	10 15